

Sample

2017. 12. 18 (月) 発行

従業員の副業

多くの企業では、“他で働くことを禁止する”ことを就業規則で規定していると思います。これには、“従業員は100%の能力を発揮する義務がある”と考えられているので、たとえ業務時間外であっても、その時間は休養に用いるべきで、他社への労務提供を行ってよい、ということにはなりません。しかし、最近はインターネットを通じた「副業」という言葉を目にすることが多くなりました。これについては、どのように取り扱えばよいのでしょうか。



■主なインターネット副業■

「手軽に月10万円」などの広告を目にすることがあります。主なものは、「アフィリエイト」「FX」「プログラマー」などがあります。

「アフィリエイト」は、自分のブログなどに特定企業のサイトのリンクを張り、閲覧者がそのリンクを経由して商品を購入すると、手数料報酬が支払われる仕組みです。

「FX」は、外国の通貨を売買して、値動きの差額で儲けを出す金融商品で、インターネットで簡単に取引ができます。「プログラマー」は、自分の運営するブログに指定されたサービスや商品についての内容を記事に書き、報酬を得る仕組みです。

■問題は就業時間中に行うこと■

副業を業務時間外に行う場合は、それが深夜までに及んで翌日の業務に支障があるようでは困りますが、仕事に影響がないようであれば、企業はこれを禁止することは難しいでしょう。しかし、いずれの副業もインターネットを通じて行うもので、従業員が就業時間中に操作することもできます。就業時間中に業務と関係のないインターネットサイトへの接続を制限することや、電子メールの送受信記録などをチェックすることは、その旨を就業規則などに記載しておくことで可能となります。

■モバイル端末の普及■

スマートフォン、タブレット端末など、持ち運びできる電子機器の普及はめざましいものがあります。会社のパソコンはある程度規制をすることができますが、外出先での個人所有のモバイル端末まで規制をすることは、難しいでしょう。今のところ、従業員の常識とモラルに期待するしかないのかもしれませんが。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 事務所
 代表 〇〇 〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〒〇〇〇-〇〇〇〇
 TEL: 〇〇〇-〇〇〇〇 FAX: 〇〇〇-〇〇〇〇
 E-mail: 〇〇〇@〇〇〇.co.jp

コンテクスト

コンテクスト (Context) は文脈、脈絡、状況と訳され、コミュニケーションの基盤となる文化の共有度合いといった意味で使われます。ハイコンテクスト文化は、顔の表情や体の動き、声のトーンといった、言葉ではない部分からの情報を活用する点に特徴があります。また、事前に知っている共通の情報や文化的な背景を前提としたコミュニケーションを取ります。その結果、言葉の数が少なく、曖昧な表現が多くなるのです。日本での「空気を読む」「あうんの呼吸」「忖度(そんたく)」といったコミュニケーションは、ハイコンテクスト文化の典型例と言えるでしょう。一方、ローコンテクスト文化では、すべての物事を言葉で表現し、明確に示そうとします。欧米や中国、ロシアが該当します。

臨時の時間外労働

労働基準法では、“災害等による臨時の必要がある場合の時間外労働等”について定めています。これを行わせるには、“使用者は行政官庁の許可を受けること”とされていますが地震発生をはじめとする自然災害により急迫な事態が発生した場合には事後の届出で構わないとされています。ここに定める“急迫な事態”とは、地震や自然災害以外では急病、ボイラーの破裂その他人命又は公益を保護するため、などがあります。しかし、通常予見されるような部分的な修理やメンテナンス程度のものとは認めないとされています。この時間外労働は年少者にも行わせることができ、その場合は年少者に関する労働時間、休日労働及び深夜業の規制は適用されません。

NEWS ダイジェスト

- **高度IT 技能取得に教育訓練給付 厚労省方針**
厚労省と経産省は、専門実践教育訓練給付の対象を広げ、雇用保険の被保険者を対象に1人当たり最大受講費の7割、56万円を上限に助成する方針を示した。講座は、AIやビッグデータ、IoTやデータサイエンスなど新システムの講座を想定。
- **所得税改革で「年収800万超は増税」へ**
自民党の税制調査会は、年収800万円を超える会社員・公務員や、年金以外の所得が1,000万円を超える年金受給者が増税になる政府・与党案を了承した。個人請負などで働く人は大半が減税になる。全体で年間1,000億円超の税収増の見込み。